



おおもとくにみつ
大本邦光 議員

ペット救護対策の 推進に伴う支援を

議員 ペットとの暮らしは、リラックスイコノ効果や責任感の高まり、運動増加など、高齢者の心身の健康維持につながる。飼い主の高齢化も踏まえ、人と動物の共生社会に向けた取り組みをたずねる。

市長 健康寿命世界一を目指す本市にとっても、高齢者が自分らしく生きがいを持って暮らすことは、非常に重要なことである。人と動物の共生社会に向け、ペットの正しい飼い方の普及啓発に努める。

議員 災害時に飼い主とペットが一緒に避難する「同行避難」ができる環境づくりについてたずねる。

市長 飼い主の皆さまへはゲージの準備や、預け先確保の啓発を進め、避難所における分離飼育、あ



るいは犬猫同伴のスペース確保についても検討してまいる。

交通安全教育の重要 性の取り組みは

議員 国が通学路の安全対策を強化したのは、平成24年に全国で登下校中の児童生徒が死傷する事故が相次ぎ発生したことから行った、通学路の緊急点検に基づいている。今後の安全確保に向けた取り組みをたずねる。

市長 本市においても、平成27年2月に笠岡市通学路交通安全プログラムを策定し、協議を行いハード、ソフト対策に取り組み、危険箇所等の整備は完了している。今後は、学校や地域から要望される箇所や、危険箇所を早期に対応する。また、今年度は5年に一度の合同安全点検の年にあたるので、安全な通学路の確保に向け取り組んでまいる。



やまもととしあき
山本俊明 議員

笠岡市立小中一貫校 を問う

議員 笠岡市第7次総合計画案で小中一貫校を設立し、モデル校の笠岡西中学校区への設置を検討する事になっている。西中学校区にどのような形でモデル校を設置するのか、小中連携より一貫がベストである理由、また、まちづくりにおける良好な条件・定住や人口増にどのようにつながるのかたずねる。

市長 一番良い形は、現在の笠岡西中学校の位置に施設一体型の小中一貫校を設置する事だと考えている。財源の問題もあり、実際には笠岡小学校の敷地に笠岡小学校を卒業した中学生を通わせる小中一貫校を設置するのが現実的であると想定している。一貫校は英語教育の充実・学習内容を長期的な視点からきめ細やかな指導ができる。若年層に対して魅力的な環境



が生まれる。この事は笠岡駅周辺の再開発、大規模な宅地開発の誘導となる。本市の発展に大きく寄与すると考えている。

JR笠岡駅周辺整備 はどうなる

議員 笠岡駅南口設置・駅前広場整備事業実施にあたっての総事業費とそれをまかなう財源、また、各事業の最終年・事業総額・財源はどうか。

市長 第7次総合計画の中で取り組んでいく。笠岡諸島交流センターまでの歩行者動線を整備し一体化する。国土交通省の支援制度の中で有利な事業を検討実施する。また交付金事業を活用して参りた。効果が期待できる事業から着手し10年程度の期間内で実施したい。有利な国庫補助金・市債を活用する。施設整備で資金を捻出する。